

尼崎市総合計画審議会 第6回総会 議事録

日時	令和4年4月26日(火) 18:30~
開催手法	WEB会議
出席委員	青田委員、稲垣委員、梅谷委員、加藤委員、川中委員、瀧川委員、武本委員、花田委員、久委員、堀田委員、室崎委員、八木委員、大江委員、小坂委員、小森委員、堂園委員、松原委員、村田委員、勇委員、中西委員、仁保委員、畠中委員、古川委員
欠席委員	原田委員
事務局	稲村市長、吹野副市長、中川総合政策局長、安田政策部長、田中都市政策課長、都市政策課職員

1. 開会

●資料の確認

●議事録署名委員の指名

室崎委員、八木委員

2. 第6次尼崎市総合計画 答申(案)について

(事務局)

<資料説明>

(会長)

前回の第5回総会でのご指摘について、事務局に加除修正をいただいています。今回もお気づきの点を忌憚なくご指摘いただきしたいと思います。今回が最後の審議会ということでもありますので、ご指摘や、無ければこの会議にご参加いただきました感想でも結構ですし、次の尼崎市の総合計画に向けてのご提案でも結構ですのでこの辺りは皆さんにお任せしますが、ご意見をいただければと思っております。最後ですので皆様の意見をいただければと思っておりますので、一人3分程度ということをお願いしたいと思います。

(委員)

改めて自己紹介させていただきますが、私は尼崎生まれ尼崎育ちです。30歳近くまではずっと尼崎で育ちまして、今も実家があるのでよく尼崎には行く機会がありますが、本当に尼崎のイメージは変わったなという感じがしております。庶民的というのは変わらないんですが、市長もおっしゃっていましたが、「課題解決先進都市」ですね、それをよく思います。最近でも暴力団の施設の撤去で市が大変活躍されたことが印象的でした。また、出屋敷の風俗関係の施設がありましたけども、それも市が主要的な役割をされたということで、恐れずどんどん課題を解決されているところに大変惹かれました。事務局の職員の方の能力の高さに失礼ながら感動致しました。

総合計画についても、手作りで作成されていて、委員の意見も良いものはどんどん取り入れて柔

軟に対応されているところや、分科会の場を設けていただいて、所管課の課長と直接お話しすることで、お互いの立場が分かって共有できたという点も大きかったと思います。

以前、大庄北の生涯学習プラザで市民との意見交換も参加させていただきましたが、市民の方も本当に熱心だなと思いましたし、その対応も素晴らしいなと思いました。百花繚乱色んな意見が出たかと思いますが、それを上手くまとめられて本当に凄い職員さんがいるんだというのが一番の感想です。普通市役所は局長さん部長さんが話すことが多いのですが、ここの会議では課長さん係長さんをご発言されておられます。現場の方が引っ張っていかれるというのは凄いなと思いました。本当にそういう意味では素晴らしい計画が出来たのではないかと思います。今後この計画を使っていく中で市民の方にいかに協力してもらう事が大切なのかなと思います。実際のところはこの内容を半数を超える市民の方が理解できるのかというと、それはまだまだ課題があるかと思います。いかに翻訳をしていくのが課題だと思いますし、もし何かお手伝いできることがあればまた喜んでお手伝いさせていただければと思います。

(委員)

長い間総合計画に関わらせていただきまして、今回このように5年後の計画ということでコンパクトに素晴らしいまとめ方をしてくださったなと思っております。「ありたいまち」「ひと咲き まち咲き あまがさき」これがキャッチフレーズになって、市民と一緒に尼崎を作っていくという流れが総合計画の中で書かれていると思います。また昔は縦割り行政というのを凄く感じていたのですが、横軸がしっかりと作られていることに感動しております。

現在私は明石市の児童相談所で働いており、つい比較してしまう部分がありますが、尼崎の総合計画を作るにあたって、皆様方のご意見やそれから事務局の方々のそれをまとめる力を十分に感じさせていただきました。本当に長い間ありがとうございます。また児童相談所もできる予定だと思いますので期待しております。

(委員)

私からは二点ございます。まず一点目は本日説明していただきました総合計画の 30、31 ページで、この図の説明が 28、29 ページに書かれているということを知ると、もっと 30、31 ページが活きるのかなと思います。例えば 37 ページにある吹き出しで「歯車を用いた施策間連携のイメージ」とありますように、吹き出しで 30、31 ページに、「この図は 28、29 ページの PDCA サイクルと横連携を重視したまちづくりをまとめたイメージ図です。」みたいなのを書いていると、戻って読まれる方もいらっやると思いますので、検討していただければと思います。

二点目ですが、これは未来の話でして、今後総合計画が策定された後、たくさんの方にやはり知っていただくというのが大事だと思いますので、まず少なくともホームページで多言語化の対応であるとか、読み上げ機能を使い掲載し、多言語化については、できるだけ精度の高いレベルのものにしていただくと良いと思います。それと、概要版も今後作成するというのを前回の会議で伺ったような気がしますので、例えばその概要版に対応した中学生や小学生高学年でもわかりやすい様なものを作成されると、小学生も中学生も尼崎市にこういう計画があるんだという関心が出てくるのかなと思いますので、その辺りの検討も宜しく願います。

(委員)

まず、今回参加させていただいて思ったことは、進め方や意見のやり取りに関しましても非常に丁寧なプロセスであったなということが一番の感想です。行政の皆様や担当課の皆様の努力には改めて感謝を申し上げたいと思います。その姿勢にこちらも甘えて何度もボールを投げるみたいな形となりましたけども、受け止めていただいてありがとうございました。

今回の総合計画の検討にあたりましては「尼崎らしい総合計画」ということをやはり最初からかなり意識させられたところでもありました。市民部会のワークショップでも「尼崎らしさ」について考える場を設けたのは新たなチャレンジだったかと思っております。そのことについてどれだけ十分に組み合わせたかということにつきましては、私の力の至らなさもあり、もう一歩次に向けては高めていけたらと思うところもやはりあります。歴史的な経緯や6地区ごとの細やかな動き、現在尼崎の中で見える「これ面白いな」というような萌芽的な動向とか、もっと丁寧に掘り起こしてそこから「尼崎らしさ」だけではなく「尼崎方式」みたいなものを見つけ出していく。そういうところは、今回の経験を踏まえて次回展開出来たらなと思いました。

最後に欲を言えば、目標や施策方向につきましても行政として継続性や実現性というところを考慮されて、堅実的なところに収まったなというのがあります。行政計画ですから、夢物語ではダメだということですので致し方無いところではありますが、この間の議論の中では他都市の先を行くといえますか、現状から一段飛ばしたような未来が見えるように示していけると良いなということもありました。今後の検討や評価のところでも皆様と一緒に考えていければと思っております。ありがとうございました。

(委員)

前回の総合計画からずっと関わらせていただいております。どうもありがとうございます。今回の総合計画も凄く議論が丁寧に積み重ねられてきているなと思っているのと、施策間連携をいかに総合計画に盛り込んでいくのかということの気概を感じながら取り組ませていただき、その反映ができていような総合計画かなと思っております。

私自身は子ども教育に携わっておりますので、情報提供をさせていただきますと、尼崎市は実は近隣都市の中でも少し特有な乳幼児期の動きがあると思っております。コロナ禍の状況の中で大阪市内、堺市、池田市などはどちらかという三歳未満の保育園入所が控えられており、0歳、1歳辺りが定員割れしているところが多く、結果的に待機児童0という事が達成できているような状況があります。しかしながら尼崎市は0歳児、1歳児、2歳児の小規模保育施設を含めて作っていかないといけないような待機児童が出続けている状況です。そう考えた時に「主要取組項目① 子ども・教育」ということで子どもの特に子育て支援の充実という辺りを持ってこられるということは、尼崎特有の課題として今後も取り組んでいく必要があり、頑張っていけないといけないなと思っております。

私が総合計画の委員と子ども子育て審議会の委員を兼務している中で感じるのが、総合計画をどうやって子ども子育て審議会のところに反映させていくのかということだと思っております。そしてそれと共に行政内部でも子ども子育て審議会担当の職員の方々がこの総合計画を踏まえて、どうやって実現していくのかということを考えて、総合計画と繋げていくという意識が必要だなと思っております。

もう1点は、未来に向けて考えた時、SDGsの視点を計画の中に反映させていますが、これをそれぞれの施策の中で、実働させていく為にはそこをどう意識させていくのかということが各部会におい

ても検討が必要であると思います。その事が未来志向として、今回関わらせていただく中で私自身も課題として感じていますので、また行政内部でも考えていただければと思うところです。

(委員)

この会議の第1回目に私の方から尼崎らしいまちづくり政策を作った方がいいのではないかと申し上げました。どの市を見ても紋切型で全然区別がつかないので、そうではなくて尼崎の素晴らしい所はたくさんあるのでそういうものを作って欲しいということをおっしゃっていただきましたが、今回それが非常に良く出ているのではないかなと思いました。とても温かくてそれから手作り感に満ちていて、色彩にしてもフォントにしても堅い所はカチツとした形を作られ、柔らかくいきたいところは柔らかいカラーと柔らかいフォントで作られていて、そこまで細かい所まで考え抜いた事務局のご苦労には本当に頭が下がる思いをしております。

計画への指摘としては、22、23 ページの「ありがたい未来の姿」「受け継がれてきた尼崎の DNA」の人間のイラストです。コロナ禍で人が密になっていることに対する生理的嫌悪感というのが結構皆さんありまして、この5人のところを3人にしていただいた方が良いのかなと思います。私自身が気になるというよりは、テレビなんかを見ていると、人が密に集まっているということに非常に嫌悪感をもっている方が結構いらっしゃるんだなと思いました。また、色弱で赤が見えにくい、赤が緑に見えるという方が男性では20人に1人位はいらっしゃるそうです。そうしたことを踏まえ、色の使い方にメリハリをつけていただければと思いました。

(会長)

ご指摘のイラストの人が集まり過ぎているところが気になるというのも、これは大変な時代になったなと思います。我々の領域から言うと、集まる事こそが新しいものを生み出す活力の源であり、これまでの都市の活力はそこにあったところですが、残念なことに今回のコロナのような新しい視点が出てきました。しかしこれはこれで新しい時代に向けての引き金になるという気がしています。この辺りは確かに現在の状況ですと、ソーシャルディスタンスというのもキーワードですので、もし修正が可能であればお願いしたいと思います。

(委員)

まず三点ほど申し上げたいと思います。一点目は皆さんおっしゃっていましたが、とても素晴らしい計画にまとめていただいたということです。特に22、23 ページのところですか、32、33 ページのところ。この辺りは本当に見やすく一目でわかるようにまとめていただいて、素晴らしいと思います。事務局の方がすごく対応してくださるので、私達もそれを信頼して色んな意見を申し上げることができたなと思っております。先ほどSDGsの話がありましたが、SDGsと紐づけをするというのは色々なところがやっているわけです。ただ私はこの制作過程に携わらせていただいたからかもしれないですが、この計画は単なる紐づけに留まっていないという感想を持っています。この計画自体がまとまればいいという話ではなくて、この計画をもって尼崎の新しいまちづくりをやっていこうという真剣さというのか、そういうものが感じとれる計画になったと思います。SDGsに関しては確かに様々な部署が関わっていかねばいけいけないので、そういう意味では総合計画をもって反映させていくという凄く良い機会じゃないかなと思っておりますので、期待していきたいと思っております。

先ほど委員から指摘のあった、人のイラストを5人から3人にする話ですが、3人の置き方が難しいと少し思うところがあります。5人は確かに密ですが、このイラストで表現しているのは、「たくさんの人」ですよ。それを5人で表しているところなので、これを3人にしてしまうとこれは1番目2番目3番目が何を表しているのだろうか、少し心配になるところがございました。

二点目は、15 ページの「(5)産業構造・労働環境の変化」について、「尼崎市では…」と書いてあり、どのように変わっていったかという、グラフと対応するとそのような記述があるかなと思いましたが、あまり見えないです。これからの環境保全を書いてくださっているのですが、そういうものを起爆剤にしてどんどん尼崎の経済を進めていくということかと思うのですが、これは「施策 11 地域経済・雇用就労」と「施策 12 環境保全・創造」のミックスです。ミックスとして「主要取組項目③ 脱炭素・経済活性」で書いてあるので、そのようになっているといえはなっているのですが、その辺りの重要性がもう少しはつきり出ても良かったのかなと思っています。ただそれは「施策 11 地域経済・雇用就労」のところに「イノベーション」としてちゃんと書いてあります。もう一点、それに関して思いましたのが、金融がお金の流れで、地域活性や環境に取り組む金融機関の後押しをすることが凄く期待されているんですね。もう少し金融機関の後押しなどどこかにあっても良かったのかもしれないなと思いました。これが二点目です。

三点目は先ほど学校教育の議論がありましたが、私も概要版というのは実に良い教材になると思います。特に何の教材かという「シチズンシップ教育」です。これからの尼崎というのを若い人達が自分の事として考えて、それで将来のまちの姿を自分で考えていくという、凄く良い教材になると思います。ですから、これが“ひと咲き まち咲き あまがさき”の「ひと咲き」に繋がるということだと思います。いずれにしてもとても良くまとめていただきまして、総合計画策定に関わらせていただいたことを誇りに思っております。本当にどうもありがとうございました。

(委員)

今回尼崎市の総合計画に関わらせていただき、私の方は尼崎市の教育振興基本計画から色々と意見を持って来させていただきました。各分野の専門分野の先生方の皆さんと議論できましたことを誇りに思っております。ありがとうございました。

答申(案)の 49 ページですが、いくつか代表指標の件がありまして「I 全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較」の目標値が全国平均で良いのかどうかという議論がありましたが、これは尼崎市の現状を踏まえて設定したものであり、今後全国平均を超えた場合は、この指標は採用しない方が良くと思います。目標を達成するまではこの指標を設定するのが良いと感じております。

また、15 ページの「(4)デジタル化の進展」のところで(尼崎市でも…)という黄色の囲みがあり、ここに「デジタル化に伴う課題への対応や、メディアリテラシー教育」と書かれているのですが、この答申(案)の中にも「シチズンシップ」という言葉が多分に出てきます。そういう意味で次期学習指導要領の改定でも、モラル教育がデジタルシチズンシップ教育になるだろうと言われていまして、メディアリテラシー教育というのはあっても良いと思いますが、「デジタルシチズンシップ教育・メディアリテラシー教育」など、デジタルシチズンシップ教育を入れた方がこれからのことを思いますと適切ではないかと思いました。

(委員)

凄くよくまとまっているなど改めて思っておりました。これからデザインの変更があるとのことでしたが、折角ですのでもっと読みやすくなればいいなと思い、少し意見を言わせてもらいます。全体的に綺麗な色合いでデザインされていますが、見ているとさっきの色だったのに次は違う色なのかとか、なぜこの色なのかとか、似ているところはみんな同じ色なのかとか、見比べましたがよくわからない色もあり、折角色を使うのであればそういう直感的なところでも繋がっていくような色使いなどをデザインに意識してもらえるといいなと思いました。また、34、35 ページを見ていた時に、それぞれ緑の矢印があって“ひと咲き まち咲き あまがさき”と5つのありたいようすがありますが、一つずつ矢印があると、それぞれがその上につながっているように見えてしまうので、レイアウトを変更した方がよいのではないかと思います。

今回、総合計画のキャッチフレーズも事務局の方が自分達で作られるっていうのは凄いなと感動しました。折角のフレーズも小さく載ってしまうと勿体ないので、しっかりと載せるところには載せられてもいいと思います。他の委員もおっしゃっていましたが、総合計画でコンサルを入れずに市の方だけで作るというのは凄いなと思いましたし、本当にそれが出来るのだなと実感しております。他市だとチャートにはめていくような、いわゆる紋切型になっていて、みんなドリルを解いているという感じがしていましたが、尼崎では本当に自分達の事を一所懸命考えており、計画はこうすると出来るのだなというのは凄く実感できました。自分達で作ったからこそきっとこれからの実践においても他市とはきっと違うのだろう、これからも期待したいと思います。

市民の方が委員としてたくさん入られていたというのも私は印象的で、尼崎の市民の方も凄く自分達のまちのことを考えて意見されているというのも素敵だと思って、役所の方も市民の方も一緒に作っているからこそその計画になったと思いますので、それに関わらせていただいた事で凄く私自身も学びが多く感謝しております。ありがとうございました。

(委員)

皆様がおっしゃっていたことを本当に色々な形で事務局の方々に反映をいただき、ありがたく思っています。私自身自治体の総合計画に関わったのが初めてでしたので、他の先生方のように他市と比較するとこうですというような事は言えませんが、皆さんが口々におっしゃられる「尼崎らしさ」について、尼崎というまち私は私も知っていますが、何が「尼崎らしさ」なのかというのをむしろ皆様のご発言からこういうことなのだと思えた審議会でした。私なりの今の結論といいますか「尼崎らしさ」はこういうことだと思えたのは、沢山の「尼崎らしさ」があると思いますが、委員の皆さんの意見にもありました、職員の方や市民委員の方、学識経験者も含めて非常にフラットな関係性で言いたいことは言う、言われた事は採用するというような凄く民主的に進んでいく風通しの良いプロセスみたいなものを感じられました。そうした関係性やプロセスみたいなものが凄く「尼崎らしさ」だなと感じたところがあって、その中で出来上がった総合計画(案)自体は非常に素晴らしいものだと思いますし、今後こうしたプロセスを評価するような枠組みだとか、こういったものがどうやって出来たのかということも含め、どう使いたいかというところに繋げていけると非常に良いのではないかと思います。

また、最後の「6.行政運営」の在り方について、この計画を作る際に関わった行政の方々がどのように「運営」し、実際に形にしていくのかというのが凄く大事なことだと思います。審議会の中でも何度か申し上げておりますが、指標については、個別の評価がどうこうという事ではなく、目標を達

成するというのが目的ではなくて、評価指標を使って「ありたい姿」にどう近づいているのかということをチェックしていくためのものだと思います。例えば、指標自体は凄く良いものを作っていただいているのですが、職員の方が色んな現場に出でいった時に、「ここが良くなっているところが測れる」というのが見えてくると思います。そうしたことが見えてくると、指標をそのままにしていけるのではなく、それこそ内部統制とかを含めて現場の声も踏まえてブラッシュアップし、成長していく総合計画になってくれたらいいなと思っています。長い間お世話になりました。事務局の方に本当にお世話になりましたという気持ちがあります。ありがとうございました。

(委員)

本当に素晴らしいものが出来ているなと思って見ておりました。その中で地元で 60 年ある大学として、24 ページの「まちへの想いの醸成と交流の創出」に「関係人口」について書いていただいておりますが、ちょうど尼崎と大学 COC 事業で協定を結ばせていただき、10 年間学生たちがお世話になっています。本学に学びに来る学生達は尼崎の市民の学生も多いですが、将来「関係人口」になってくる学生も沢山います。いつも学生達に話すのは学生時代の経験があるから今の自分があるということです。それを作ってくれたまちが尼崎なんだと言えるよう、常々授業でも話をしているところです。

少しだけ事例紹介ですが、本学もようやく昨年度からリカレント教育という形で、女性の学び直しの講座を昨年 11 月から 4 か月間開きました。その中に鳥取県出身の卒業生で、現在鳥取県の銀行に勤めているのですが、子育て支援で社会課題の解決をやってみたいということで、毎週土曜日に通って、また尼崎で学んでくれているというようなことがあります。これはまさに「関係人口」と申しますか、そういった学生が出てきてくれているということで、今後また帰ってきてくれるようなそういう大学づくりといいますか、地域に育てていただいている大学ですのでそういう意味で交流を促進して尼崎に想いを持つ学生達が育ってくればいいなということが感想です。

もう一点、これは私も専門の分野でいつもお話をさせていただいているところですが、44、45 ページの「(3)歴史遺産の継承と学びの充実」(②歴史遺産を守り、活用しながら継承していく取組の推進)という部分ですが、これは新しい歴史博物館ができて、大学の方で稲村市長にもご登壇いただき、シンポジウムも開催させていただいて、他にはない新しいスタイルの公文書館と博物館が合体した尼崎の歴史博物館が完成したところです。現在、文化庁が求めてきております「文化財の保存活用地域計画」という歴史や文化財版の地域計画について、県下 41 市の 4 分の 1 ぐらいが取り掛かかっているところであり、私も 3、4 力所関わっています。今後、博物館文化財行政を軸にこの総合計画に基づいて更なる発展といいますか、「尼崎らしさ」というのが先ほどから度々出ていますが、尼崎ならではの歴史遺産の市民への活用が実を結んでくれるということを期待しております。

(委員)

1 回目から行政の方達がプロを入れなくてよくまとめているな、というところを申し上げており、私からは細かい指摘はございません。現状が分析されて、次の展開方向を決められて、これが実際に行政施策に反映されていく中で、商工会議所というものは、具体的に何かをしていく時に両輪のように協力させていただかないといけない団体であると思っています。商工会議所という立場で言いますと、「商」の文字というのは BtoB だけじゃなく BtoC もある中で、尼崎市に住まれている市民

の皆様の生活の一部を担っている部分でもありますし、「工」の部分というのも、どこかで工場が勝手に動いているという話ではなく、尼崎で育った子どもが尼崎の会社やお店や工場に就職をして社会人として働き、尼崎に税金も納める。またその次の世代も尼崎で育ち、定着していくというのを目指すということについて、行政の皆様と商工の立場で関わるプログラムみたいなことが沢山出てくると思いますので、その際は是非ともお声がけをいただきたいと思います。

また、行政との人事交流などにより、お互いの交流もありますが、商工会議所というのは、ある意味半分役所のようなところでもあります。しかし構成をしているメンバーはどこかの社長かもしれませんし、どこかの従業員かもしれませんし、労働者かもしれませんし、どこかのお店の経営者かもしれません。そういう人達が商工会議所の仕組みと行政の仕組みの中でいわゆる一般の市民と結びついて何かができるっていくというのは、私達商工会議所の立場で言えば理想なので、行政にもうまく使っていただければとお願い致しまして、皆様ご苦勞様でしたということで終わらせてもらいたいと思います。

(委員)

現在は編集の現場を離れていますが、今から 20 年近く前に尼崎市の市政担当の記者をさせていただいていました。稲村市長の前の白井市長が市長になられた位のタイミングで、ちょうど阪神タイガースが久しぶりに優勝するということがあり、阪神尼崎駅の駅前でパブリックビューイングをやるということがありました。その時に市役所、商業者の方々と市民が一体になって、もの凄い人手、盛り上がりで、凄いイベントを一体になってやりとげた、という事があり、市の職員や市民の方も含めてまち全体のポテンシャルがあるということが、私の思う「尼崎らしさ」だなと思います。

今回初めてこういう総合計画の審議会に入らせていただきましたが、いくつもの行政と関わってきた中で、やはり市なり県なりが作ったこういう計画の類というのはあまり面白くない、どこを読んでいいのかわからない、総花過ぎる、というのがあって、何度かこれまでも話題になりました「尼崎らしさ」というのをこの計画の中に入れ込むにはどうしたらいいのだろうということを皆様の意見も参考にさせていただきながら考えていました。総合計画という計画の性格上なかなかどこかの分野を突出させることは難しいと思いつつ、皆様との議論の中で最低限の「尼崎らしさ」をこの計画の中に盛り込んだのではないかと考えております。また、例えば毎年の予算などで強弱をつけて、ここを少し強く出すといったように、この計画を基に活きた形で具現化、具体化していただきたいということで私の発言とさせていただきます。どうもお疲れ様でした。

(委員)

先ほど委員からお話のあったように、自分も尼崎で生まれて尼崎で育ち、尼崎の学校を出て、尼崎で勤めており、今まで一度も尼崎から出た事が無い人間でして、今回何故尼崎を離れる事無く自分はここで暮らしてきたのかということ、委員になったことで改めて考えましたが、やはり公害であったり、犯罪であったり、教育のレベルであったりと、尼崎といえば全国でワースト1ワースト2のところで名前があがってくる位、悪い印象が強いまちでしたが、本当にこの数十年の間でもの凄いスピードでそこが改善されてきていると思っています。また、住んでいる人も含めて、尼崎って面白いと思っているから離れずにそのままいるのかなと、改めてそういった想いを抱きました。

今一つ心配しているのが、先ほどもお話しがありましたが、尼崎の産業、元々ものづくりのまちと

かそういう言われ方もしてきていましたけども、尼崎で学校を出た子がなかなか尼崎の企業に就職してくれないという事があって、会社としては採用努力として地方に行って学校の先生にお願いして何とか尼崎の企業に来てもらっているという状況です。これも年々厳しい状況になってきておりまして、大企業ならまだましですが、中小、町工場になってくると採用ということでは、厳しい状況になってきており、これからどうなっていくのかと心配をしています。ただ今回まちづくり構想をまとめましたけども、行政、市民、それから企業も一緒になってしっかりとまちづくりを進めていき、良いまちができればまた人も集まってくるようになっていくのだろうなと思っておりますので、そういう意味では今後も注目してみたいと思っています。

(委員)

皆様のご指摘のように本当に素晴らしい計画が出来たと思います。本当に事務局も頑張られたと思いますし、事務局だけではなくてこんなに多様な委員がおられるなかで、まとめることができたというのは、やはり「尼崎らしさ」というものにこだわりながらそれを基軸にもっとこうなったら良いのではないかと、といった方針みたいなことを貫いたことが一つの成果ではないかと思っています。そういう意味でもっと「らしさ」を十分に発揮するにはどうしたらいいかという視点で考えたのが、プラン A だと思います。その対極にあるのがプラン B で、マイナス面をどのように減らしていくか。例えば生活困窮、貧困、格差、社会的排除というようなものがありますが、総合計画というのはどの自治体もそうですが、やはりプラン A の方が多くて、この審議会でもプラン A でいこうとみんなで合意したわけで、それを踏まえて作成してきました。そういう意味ではプラン B の部分をどのようにこれからの実際の行政の中で、あるいは個別の計画の中でカバーできるか。とりわけコロナ禍で凄く生活が苦しくなった方が沢山おられますので、改めて生活困窮、貧困、格差、社会的排除そういうものに対してどのように向かっていくのかが問われ、それは個別計画なり、行政の個別の施策の中で改めてこれからやっていく事だと思います。

(委員)

まずはこれだけのメンバーがいる中でしっかりとまとめていただいて、これだけの素晴らしい総合計画が出来上がったことにつきまして、本当にご苦労様でした。当初からこの審議会委員として関わらせていただきまして、色々勉強になることもありまして、この計画に対する思い入れも凄く強いものになったと思っています。私は尼崎信用金庫として地元の尼崎に本店を置く金融機関として、まちづくりに関してはやはり同じ想いといたしますか、同じベクトルを持ってそれぞれの立場で進んでいると思っています。

私は総合企画部ですので、金庫の事業計画に携わっている部分もございます。今後の市のまちづくりにあたり、市の施策も金庫と関わる部分が沢山出てくるかと思っています。また金庫についても市のまちづくりとして色んな施策を立ち上げておりますので、双方向色んな形でご意見を出させていただきながら、お互いの施策が実現でき、それが最終的に地域住民の方々や地元の中小企業様の経済の活性化、業績向上に向けてしっかりと実を結ぶような形にできるよう、しっかり取り組んでいきたいと思っています。総合計画の策定にあたりまして、事務局の皆様、審議会の皆様お疲れ様でした。

(委員)

私からは感想と伝え方という観点でお話しをしたいと思います。まず感想ですけども、個人的には

先ほど委員からご指摘があったように、マイナス面に関しては今回あまり触れられていないようなところがありましたので、課題の本質にどこまで踏み込めたのかなというところは、個人的には少し反省点として残っております。もう一つ、「尼崎らしさ」というのはずっと言われ続けられていることですが、それがどこまで出来たのかということについても、もっと「らしさ」を表現できるようなそういう意見を言えれば良かったのかなというところで少し反省しているところでございます。

この総合計画の使い方という部分ですけども、本当にこの計画が活きている、生きていない、活かされているというところで行くと、市民と事業者と行政が協働して進めるということが具現化して、その結果の成功事例とか、そういうプロジェクトがどんどん動いてこういうことになりましたということが見ればこの計画が活かされているのではないのかなと思います。強みを発揮して弱みを補うと言う表現で謳われていますが、その辺を色んな形で取り組んで具現化していくことでまた市民の皆様もそうですし、色々なところでこの計画が生きてくるのかなと思います。

もう一つはこの計画が10年というものになりますから、小学校の高学年位から中高生をターゲットにして、この計画を尼崎で学ぶ次世代のリーダーになり得る子ども達にどんどん出していき、想いを共有するというような、そういう取組が必要ではないかなと思っております。何らかの形でそういうところにも取り組んでいってほしいと思っております。最後に本当に皆様おっしゃっておられるように素晴らしい計画がこうして出来上がって事務局の方はじめ委員の皆様のご尽力には心から敬意を表してお礼申し上げたいと思います。

(委員)

この総合計画に関わらせていただき、先生方の話をお聞きして、「尼崎らしさ」に関わらせていただいたのかなと思っております。私自身を振り返ってみると、生まれた時から尼崎に住んでおり、一番しんどかったのが20年位前の子育て最中に色々教育環境で悩んで色々な所に相談に行った時に、「引っ越すしかない、それ位でないと環境は変えられない」といったことを言われました。20年経ち、今ここに座っている自分を想像できませんでしたが、あの時に引っ越しをせずに尼崎に住み続けて良かったなと感じております。

一点、最近色々な所で職員の方と接する機会が増えたのですが、総合計画に触れたことが無いという職員さんが割と多く、一所懸命担当課の方を中心に熱心にやり取りし、作り上げているものを、実行していく現場の職員さんが知らないというのが残念だと思いました。一方では、夏のタウンミーティングの時に、本市の職員を目指している方が割とたくさん参加されており、若い方が興味を持ってくださったというのは凄く良かったと思いました。その後、職員になられた方もおられるかもしれませんが、そういう方々の興味を継続して引っ張っていけるように、これからは総合計画を作る為のタウンミーティングではなくて、それをみんなが知って使っていく為のタウンミーティングを継続してやっていただけたらと思います。

私自身がこうやって市の事に関わらせていただくようになったのは、元々稲村市長がサマセミに行こうと誘ってくださったことから始まっています。「尼崎らしさ」と皆さんがおっしゃっているように、色々な人達が混ざり、参画していけるように色々な意見を言い合い共有していき、何か一つのものを作り上げていくという体験を一人でも多くの方ができるようになるのが、尼崎らしいのかなという風に思います。一番の魅力は市民と職員の垣根が低く、一方では行き過ぎると問題もあるのかもしれませんが、今の時点では凄くプラスに働いており、これが他市には無い魅力かなと思っております。

これからも市民や今おられる学識の先生方も混ぜこぜになって市のことを語り合うような場ができたら、それが一番「尼崎らしさ」を継続するといえますか、より良く発展する尼崎になるのかなと思います。私自身もこれからできることは参加していきたいと思っております。こういう機会に恵まれた事を感謝しております。どうもありがとうございました。

(委員)

私からは二点あります。市民委員としてここに参加していますけども、私自身北海道出身ですので、10年前位に尼崎に引っ越ししてきて、やはりよそ者の感覚があり、凄く田舎育ちですのでこういう都会の中でまちに住む人達がどういう事を考えているのか、というような事をこの10年間で色々感じており、その体感の部分を文章にするとこういうことになるのだなと腑に落ちる部分があります。

この総合計画冊子は、冒頭にあるように、羅針盤として皆様で「ありたいまち」を共有していくベースになるものだという事なので、これから概要版を作成していくと思いますが、それがやはり鍵になると思います。これは使うための計画だと言いきっていただいているので、使う場所というのももちろん市民全員、事業者の人や行政職員にとってもというのもベースとしてはあるとは思いますが、具体的なターゲットとして、先ほど委員からご発言もありましたように、小学校高学年や中学校だったり、子どもが見てわかるようなものであったり、何パターンかあってもいいのかもしれない。生涯学習プラザの整備がどんどん進んでいますし、市民がその場でワークに参加できるようなオープンミーティングが地域によっては増えていますので、例えばそういう場で必ず一枚物の用紙を皆さんテーブルに置いて、私たちが話している事がこの部分にあたるという事を共通認識してもらうこともいいのではないかと思います。

若者という部分であれば、ユース交流センターが今色々盛んに新しい活動もされていて、ユースカウンスルで若者の立場として行政のまちづくりに関わるという事が少しずつトライアルとして行われ始めています。そういう場で若者目線の課題や取組を進めて、ワークショップなどを行っているようですが、そこにしっかり行政の計画との連携を取るという意識を持っていただくという事で、単に自分達が考えたことが出来たのではなく、自分達が考えている事が、行政全体として色んな専門家の方とかが関わっている総合計画のこの部分にあたるんだということを認識してもらうことで、また意識が変わると思います。

今後、概要版を作成していくにあたり、具体的にどのように使う為のものを作るのかということ、デザインや、内容をどこまで削っていくのか。また、詳しく知りたい方はこちらを見てくださいというところをどのようにガイドしていくのかということを含めて、具体的なターゲットや場を設定して、どう伝えていくのかというのを、私達も概要版の完成後に確認できる場もあるかと思うので期待しています。

(委員)

市民委員として今回初めて参加させていただきまして、こうやって作られていくものなんだと改めて驚きました。毎回総合計画を送っていただいて、その内容の変化具合に毎回驚かされました。こんなに変化していくものなんだというのが意外で、この過程を市民が見ただけでも面白いだらうなというのは少し感じました。

少し気になったのが、23 ページにある「◆まちづくりの進め方」の(■情報共有)の部分です。(■

参画)(■協働)(■対話)はしっかり内容が書かれていますが、(■情報共有)の部分だけ、「まちづくりに関する情報を共有します」という事だけで、記載が薄いと感じました。この部分をもう少し上手に伝えたいのにもと思いました。最後の方にも「情報の共有」というページがありますが、もう少し具体的に挙げてもいいのかなと思います。例えば市のホームページや、時代によって共有の仕方を変えていき、それこそ生涯学習プラザを使い地域の方に直接共有するみたいなことなども良いと思います。

先ほど委員がおっしゃっていた部分が私も同じ意見で、今後この計画がどういった使われ方をされるのかと思うので、市民の日常会話でうちの子がどうこうと言う時に、「それ総合計画に載っているよね」という位に気軽に市民に浸透していくととても面白いものになっていくのだろうと感じました。是非上手に活かしていければと思います、次のステップに凄く興味があります。上手に使われていくともっと面白い形になっていくんだろうなと思いました。10年後に改めて見返した時にどういう評価になっているのかがとても楽しみです。逆に担当の課によってタスクが割り振られたみたいな状態になっているので、担当課の人達もやりがいが出るのではないかなと思います。

(委員)

私からは大きく二点述べさせていただきます。まず色々な委員の方がおっしゃっていましたが、委員の皆様の意見であるとか、タウンミーティングに参加された市民の方の意見を沢山吸い上げて、よくこれだけの文章を起こしてまとめ上げられたなど事務局の皆様の熱心さと柔軟性にただただ頭が下がるばかりです。総合計画に携わらせていただいた立場としては、折角ここまで作り上げた計画を少しでも多くの市民の皆様に知っていただき、内容を理解していただければいいなというように思っています。それこそ、この総合計画の 71 ページ「行政運営 1-1 市民の市政参画と情報の共有・発信」というところを上手く進められないのかなと思っています。ここの「1 取組項目」((2)市政への参画の推進)「政策形成段階における市民の市政参画の推進と政策提言機会のさらなる充実を図ります」と((3)より戦略的・効果的なシティプロモーションの推進)というところの戦略を練って、それこそ活動人口に繋げていければと思っております。例えば一般市民向けには、タウンミーティングのような形で各地区でレクチャーする機会を設けるであるとか、将来的に活動人口の中核となってほしい中高生あるいは大学生に対して、中学校、高校、大学まで赴いてレクチャーする機会を設けるであるとか、そういう形をもって活動人口を増やして、より住みよいまちづくりを発展させればと思っております。

それともう一点、総合計画と SDGs との関わりということでこの計画の 40 ページ以降に SDGs のマークを多用して、SDGs との繋がりをアピールしていますが、ご存知のように尼崎には SDGs 推進サポーター制度というのがあって、SDGs に関わる活動や取組をして申告すると、「あま咲きコイン」が付与されるというのがあるんですけど、こういう試みをもっと範囲を広げて、この総合計画に関わる活動と言ってしまうとあまりにも範囲が広がりますが、同じように「あま咲きコイン」が付与できるというような形も取ればもっと活性化するのではないかなと思っております。例えば 8 月に予定されております「みんなのサマーセミナー」に参加するとコインが付与される、しかも先生として登壇されるとボーナスポイントがもらえるとかがあってもいいと思います。あと、6 地区の各地域課でイベントを毎回されていると思いますが、イベントで例えば清掃活動であるとか、子育て支援活動であるとかそういう活動に的を絞って、このイベントにはポイントを付与しますとかいうのを煽って多くの市民の

方々に参加してもらおうというような仕組みを作ると「あま咲きコイン」が地域経済を回して活性化する一つの役割にもなりますので、そういうところでもっと「あま咲きコイン」を上手く利用すれば活性化に繋がるのかなと思っています。

(委員)

いつも計画策定が終わった段階で申し上げますが、ここが終わりではなくここから総合計画をどういう形で使っていくかというところのスタートでもあります。先ほど委員から現計画を知らない職員さんもいるというご指摘がありましたけども、今回はそうならないように私も含めて色々仕掛けを回していけないといけないのではないかなと思っています。私も色んな市で総合計画の作成に携わらせていただいて、今回の尼崎もそうですが、作成側はホットになって何とかしようということになりますが、作成側がホットになればなるほど、周りの方々との温度差ができてしまうというような経験もまして、この辺りの温度差をどのように埋めていけるのかというのがこれからの課題かなと思っています。

特に将来像の「ありたいまち」が抽象的であり、普段は無視しても仕事ができますので、ここを無視しないようにどうするかという事が大事です。大学も同じような傾向があって、大学は3つのポリシーというのがあり方針を決めているのですが、普段私達教員あるいは学生がそれをどれだけ意識しているかというのはなかなか難しいところがあります。大学も自己点検評価があって、通常大学は7年に一度ということですが、当大学は十数年前から毎年自己点検評価をしていこうということで学部レベルの取組を重ね、大学全体レベルでやっています。そうすると習慣として毎年方針を評価しないといけないという姿勢ができ、方針を見直していこうというような機運が高まってきます。今回の総合計画でもPDCAサイクルを回そうということになっており、ここが市内部での意識づけの一つのきっかけになりますので、使っていただければと思います。一部職員が評価をするのではなく、できれば全職員が年に一度総合計画を見返して、自分の一年間の仕事の評価をしていただけるような市役所の仕組みができたらいなと願っております。

一方で市民の方々もやはり共有していかないといけないという事では、委員からご意見があったように生涯学習の中に総合計画の内容をいかに埋め込んでいけるかだと思います。私は生涯学習審議会にも参画させていただいておりますので、それは私が繋ぐということも一つの責務かなというように思っており、また市民レベルで生涯学習の仕組みをいかに総合計画と連動させていけるかというのが勝負かというように思いますので、私も含め沢山の方々に共有していただき「ありたいまち」の実現に向かい頑張っていけるようなそんな協働体制をとっていただければと思います。

(会長)

ありがとうございます。もう少し時間的に余裕があるかと思いましたが、いただいた時間になりつつあります。今回も非常に建設的なご意見を沢山いただきました。今回のご意見につきましては時間の制約もありますので恐縮ではございますが、事務局と私で相談し、答申の方に反映させていくという事で進めさせていただきたいと思っておりますけどよろしいでしょうか。本日の皆様のご意見を反映させていただいたものにつきましては事務局から皆様にフィードバックするというような形にさせていただきます。

(事務局)

今後のスケジュールの報告をさせていただきます。会長からもありましたように、本日いただいたご意見につきましては会長と相談のうえ、反映させていただきたいと思っており、これを反映したものを5月11日に答申として手交いただく事となっております。その後5月18日に市議会の方の総合計画等協議会において答申を報告させていただきます。6月の市議会に議案を提出させていただくというスケジュールを進めて参ります。本日も沢山ご意見いただきました総合計画の概要版、市民向けのリーフレットにつきましてはこれから策定を進めていきたいと思っており、わかりやすくそして強調すべきところは強調して市民や職員、全ての方と共有できるリーフレットを作成したいと思っておりますので、是非ご協力をお願いしたいと思っております。

(市長)

皆様、終始熱心にご意見共有いただきまして心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。今回も様々なご指摘をいただきましたし、エールもいただきました。また引き続き一緒にやっていくよというお話しもいただき私たちも益々総合計画をしっかりと使って尼崎らしいまちづくりを進めていくという決意を新たにしたいと思い、引き続きのご協力を宜しくお願い致したいということをもって、感謝の言葉としたいと思います。皆様ありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。

(会長)

委員の皆様が成果についてお褒めいただく事に加え、本当に参加して良かったというように思っていたく、そういうお声も聞かせていただいたのは、会長という立場で意見調整と整理をしていたので本当に嬉しく思いました。皆様の評価の背景には私も割と長くこの尼崎の総合計画をお手伝いしてきましたけども、これまでの膨大な市民との様々な接点、企業の皆様とのやり取りの蓄積があって、様々な議論を事務局の方が整理していただいたというのが一つです。もう一つは先ほど委員からもありましたが、非常に丁寧なプロセスを着実に進めていかれたと、委員の非常に大きな視点や細かな指摘に対し、本当に丁寧に対応して作り上げていかれたというのが今回の皆様の評価に繋がっているのだらうなという気がしております。

最後に一点だけ、1年半でありましたけども、激動といいますかこれまで私達が体験した事のないような事態が起きている期間の総合計画策定過程であったと思います。言うまでもなくコロナ禍の問題であり、さらに言えば今も続いている戦争状態であるウクライナの問題であります。特にこのウクライナの問題は直後から日本にとっても決して他人ごとではないとこれは皆様も重々承知だと思います。最近様々なところで国民や市民の安全を守ることに対して、これはどうも手を抜いていたのではないか、あるいは見て見ぬふりをしてきたのではないかという議論が随分出てきました。ウクライナの問題を見ていると、残念ながらそのような指摘が出てくるのも仕方ないかなという気がしております。総合計画の中にこうした事態や、今後何が起きてくるのかわかりませんので、一つ一つ個別に対応できるような事を書き込むというのは難しいと思うのですが、想定を超えた衝撃がこれから我々に降りかかってくることもあると思います。この時に市民をどう守るのかというのが一つです。もう一つは、市民と共にこれにどう対処していくのかという視点がやはり重要なのかなという気がしています。この総合計画はここまで出来上がっておりますので、こうした事態に対して改めて何かを書き加えるという必要はないかと思いますが、是非次の総合計画を議論する前提として今

我々が直面している困難を念頭に置いた議論も必要なのかなという気がした次第でございます。一応これで第 6 回総会を閉会ということにしたいと思えます。皆様本当に真摯なご意見ご協力ありがとうございました。

(事務局)

皆様本当にありがとうございました。できる限りいただいた意見を反映したいと思い、対応して参りましたが、やはり審議会で多様な方からいただいた意見を我々は形に変えてきたという事で本当に色々な皆様の意見が詰まった計画になっていけば。それを皆様が感じていただければ我々としては良かったと思っております。これからこの計画を使って、市民の皆さまと共有できるようにわかりやすいものをリーフレットなり、周知ツールとして作っていきますので、今後ともご協力いただきたいと思えます。またご報告をさせていただきたいと思えます。本当にありがとうございました。

以 上